



公益社団法人芦屋市シルバー人材センター

はつらつ 芦屋

2021・1 No.31



ホームページアドレス <http://www.sjc.ne.jp/ashiya/>

芦屋市シルバー

検索

打出天神社にて
水彩画 前田 穰(会員番号1488)

TEL 0797-32-1414 FAX 0797-31-9223

なった6つの委員会

安全・適正就業推進委員会

社会の一線から退き、また子育てが終わり、第2、第3の人生で社会に貢献しようとするシルバー人材センターに入会し就業している皆様にとって何よりも「健康と安全」が大切です。

この数年の分析からも、
①思っている以上に自分の身体的能力が落ちていく。(この位は大丈夫だろう)
②正常性バイアスによる危険の見落とし。(危険に遭遇した時に過小評価して自分は大丈夫だと判断する人間特性)

この2つの原因が我々の起こす事故原因の大半を占めます。委員会では無事故に向けて「安全・適正就業だより」の発行、「安全標語」の募集、様々な安全講習会を開催しております。



委員会では会員が気持ちよく安全に就業するための適正とは何かを考え、どうすれば会員もお客様も満足していただけの契約と働き方になるかを検討していきます。就業に関する相談窓口も設置し、皆様と一緒に健康で安全に就業するための環境づくりを目指して活動してまいりますので一層のご協力をお願い申し上げます。

会員拡大委員会

会員拡大委員会の役割は、会員の入会促進、女性会員の増強、専門技術・技能の会員増強、退会者の抑制策の検討です。入会促進については街頭啓発などで、より多くの市民の皆様にはシルバー人材センターの活動を知っていただき、たくさん仲間を増やすことが主な取り組みです。女性会員の増強は女性の会「芦やん小町」と協力して、より多くの女性に入会していただき楽しく元気に活躍してほしいと思います。専門技術・技能会員の増強は会員皆さんの隠れた技術技能を掘り起こし精査して、今までお受けできていないお仕事を受けるようにいたします。



最後に退会者の抑制は、今までご活躍され高齢でお仕事ができなくなっても、楽しい人生をお過ごしいただけるような方策を考えてまいります。委員のひとりひとりが、皆で運営するシルバー人材センターとなるよう委員一同も頑張りますのでご協力・ご支援を宜しくお願い致します。

事業活性化委員会

令和2年度に委員会の再編成を行い、芦屋市シルバー人材センター事業をもっと活性化し、会員にとって生きがいとなる就業領域を創出し、芦屋市民から信頼される組織に成長させるため、新たに事業活性化委員会が誕生しました。

令和2年度の事業計画の活動基本方針は以下の5本柱で活動して行きます。

- ①就業機会の確保・拡大
- ②多様な働き方の確保
- ③独自事業の推進
- ④派遣事業の拡大
- ⑤地域ニーズの情報収集

これらを検討・実行することで、会員みずからの達成感と芦屋市民への貢献をとおして、仲間意識を高め芦屋市シルバー人材センターを、芦屋市のブランドの一つに育て上げ、福祉行政に貢献し、高齢



者にやさしい住みよい街、地域社会に無くてはならないシルバー人材センターであるよう頑張りますので、皆様のご協力、ご支援をいただきますようお願いいたします。

6月に新体制と

会員活動委員会

「会員活動委員会って何をする委員会？」と聞かれたら、「お仕事以外の地域貢献や会員交流、お楽しみ企画・運営を担当する委員会」と答えています。例えば、街の清掃や保育所へのボランティア活動、研修バスツアーやシルバークロスツアーといった会員同士の交流・親睦を図る企画・実行、サークル活動の支援等々。

今年、コロナ禍の影響で年2回の会員研修バスツアーをはじめほとんどの企画が中止となりました。その中でも何かできることがないかとオンライン茶話会を考え、まずその為にはスマホ、パソコン、タブレットが使える必要があると、関心のある方対象に無料の講習会を開催しました。



人生100年時代。シルバーに入会して「友人・知人が増えた」「趣味が広がって毎日が充実している」と言っていただけに、少しでも皆様が地域と繋がって元気で活躍頂けるように企画しています。皆様のご参加をお待ちしています。

会員意識向上委員会

人生100年時代を迎え会員の皆様方は、はつらつそして活き活きと就業されていることと思います。令和2年度に「会員意識向上委員会」が新設されました。当委員会の目的には3つの柱があります。

①就業する上で「会員スキルアップ研修の企画実施」ということを考え、仕事に役立つ研修を実施する。それにはこの今の時代を乗り切って、かなければならないという会員の意識改革も必要です。

②現状、参加者が少ない研修等への参加促進を行う制度を検討し、なぜそうなのか原因と対策を考えなければなりません。

③私たちが就業する上で基本となるのはセンターであり、センターのイメージアップ



を図ることに より就業の機会が増え、会員も増えることが予想されます。このようなことを考えながら当委員会を進めて参りますので会員皆様方のご協力をよろしくお願い致します。

広報啓発委員会

広報啓発委員会の、来し方行く末をお話ししましょう。

15年前にうぶ声をあげた広報委員会は『はつらつ芦屋』と共に歩み、この会報誌の編集を中心に活動して来ましたが、今年度から新たに広報啓発委員会としてスタート致しました。今までの取材や編集作業に加えて、会員や市民の皆さんに、シルバーをもっと知って頂くための対策を考えます。

手始めに、山中理事長を『しるばくたいむず』の表紙に、イメージアップを狙い登場して頂きました。入口の掲示板に『はつらつ館』の月間スケジュールを掲載、ホームページの内容充実、ポスター制作等、検討しながらタイムリーに活動をしています。



そして、会員の皆さんにシルバーの活動を発信していただくだけではなく、会員同士の繋がりを細やかに、又情報を共有して頂けることを大切にしていきたいです。

ある時は原稿を公募で、ある時は取材でと、皆さんのすぐ横にいる委員会でありたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

機械清掃講習会

9月13日(日)、はつらつ館において「機械清掃講習会」が開催されました。当日は3名の参加があり講習会とその後の現場作業を生き生きと進めておられました。

最初に機械清掃班のリーダーの大淵さんより作業手順や作業方法の説明があり、その後現場実習が行われ、はつらつ館全体の機械清掃をされました。



作業工程はワックス落とし(ポリッシャー洗浄)↓汚水処理(バキューム、モップ)↓乾燥(扇風機)↓ワックス掛け、とそれぞれ時間を要する工程が続きます。

9時から講習を始め、はつらつ館全体の機械清掃が完了したのはお昼を過ぎていました。一生懸命に作業して頂いたおかげで床が見違えるように綺麗になりました。皆さん、お疲れ様でした。ありがとうございました。

取材 尾地 照男

洗浄後の汚水処理



作業中



作業完了後



「はつらつ館」の玄関も清掃

今年も

芦屋市役所でパネル展

9月11日から9月24日迄、芦屋市福祉部高齢介護課のご協力を頂いてパネル展を開催しました。芦屋市役所北館の入り口左側のブースにパネルを展示しました。8日間の開催でしたが、213名が来場されました。

テーマは「シルバーを楽しもう!!」です。もちろん、理事長表紙の『しるばくたいむず』も入り口の立て看板でお出迎え。今回はコロナ禍で、活動が自粛されたため前年のパネルを使用しましたが、会員の声を吹き出しで表現したところ、気持ちがりアルに伝わったと好評でした。

アンケートに、「既に就業を依頼しています」「皆さん楽しそうに活動をされていますね」「父親に勧めたい」「関心がない」等書かれていました。

期間中案内を担当した役員・職員・広報啓発委員は、来場者と直に話を聞くことが出来、俯瞰的にシルバーをみる事が出来たと感じました。



このパネル展が市民の皆さんにシルバー人材センターをより知っていただく機会であること、また会員募集に繋がることなど、貴重な広報活動だと改めて認識致しました。

廣田 輝代 (会員番号2652)

元気の秘訣

動くことが大切

堅田 義雄会員の巻
(会員番号2307)

85歳と
お聞きし
ていた堅
田さん、
お会いし
て「え！
お若い」。
秘訣を
色々教え
ていただ

けるとワクワク。まずは直球で元気の秘訣はと、「特にないが、こまめに動いているから」それも意識しているのではないと。動きの源はシルバーでのお仕事。配布班で月2〜3回、地域班で月1回の配布。週2回ずつ、国際交流センターと市役所公光分庁舎での掃除。これが生活のリズム。

「この様に仕事をしているのも健康のため。仕事があるから健康でいられる。そして健康でないと仕事ができない」とおっしゃるのには大いに納得しました。

若い時に身体を鍛えておられ、特に山歩きが趣味で近畿一円の間山はほとんど登ったと話されました。単独行で60歳ごろまでは登っておられたそうです。

今は日常的に歩くことを心掛け、それも平地では足を鍛えられな



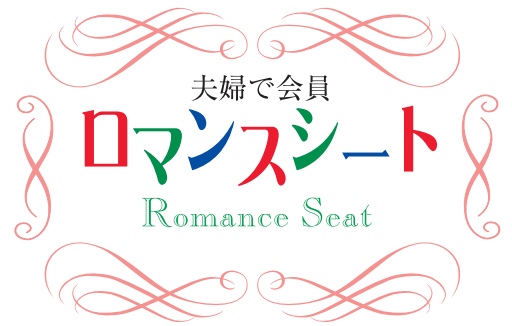
いからと坂道を登ばられており、良く行かれる所は城山からロックガーデン、岡本の保久良神社などの2〜3時間コース。(それつて軽いハイキングコースでは?)

先日久しぶりに元部下の方と和歌山の龍門山へ登られ、何事にも挑戦という気持ちを持っていたのを思い出されたそうです。

「何事にも前向きに物事を考えて動いていく。そうすれば身体も動いていく。物事をおざなりにしてはいけません」

「有難いことに元気でおられるのは、元気な身体に産んでくれた母親にも感謝。95歳位までは大丈夫でしょう」と穏やかに話してくださいました。

取材 加古 良子



あ・うんの呼吸

松下 博史(会員番号2505)
松下 佳子(会員番号2389)

当時、仕事帰りに職場の皆で、飲みに行ったのがきっかけで結婚されたお二人、お酒が繋がった縁のご夫婦です。

お二人の就業をお聞きすると、博史さんはグラウンドゴルフを毎日したかったので、夜の就業を選び、週2日の宿直を、佳子さんは小町カフェのスタッフです。

趣味は、お二人とも映画が好きで、揃って家でもビデオを楽しまれています。博史さんに好きな映画を伺うと、『心の旅路』かなと言われ、佳子さんはうなずきながらも、古いねーと直ぐに反応、あ・うんの呼吸。



取材 廣田 輝代

博史さんは、ビデオ同好会でも楽しみ、佳子さんはフラを始め、8年目。シルバーではウクレレ同好会に参加しているそうです。

ご夫婦が会員で良かった事とは尋ねると、共通の話題が多く、共に楽しみ共に話す。お酒はと聞くと、今のお酒は健康的な飲み方で、と博史さんの言葉が印象的。

就業と楽しみを、お二人流に分ち合うご夫婦でした。

◆ コロナ禍での知恵と工夫 ◆

ESSTのコロナ対策 三谷 千尋 (会員番号1199)

ESSTの英語教室には、「らくらくイングリッシュ(2回/月)」、「ワンコインイングリッシュ(1回/月)」、「英字新聞に親しむ(2回/月)」、「入門英会話(2回/月)」の4クラスあるが、3月以降その活動をすべて休止して来た。

7月からの活動再開が認められ、再開についてメンバー間で協議を重ねたところ、再開の条件として、英語の発音・発声に伴う飛沫の拡散防止スクリーンを講師と生徒の間に設置することにした。

講師は立って話をすることも多く、高さ2m、幅1m以上のものの設置を計画したが、このような品物は先例もなく、取り敢えず試作することにした。その上で作成したのが写真のスクリーンである。普段は解体して片づけられる構造になっている。作品については、メンバーの了承も

得られ、7月からこのスクリーンを活用しての教室を再開した。

クラスによっては使用教室の広さや入室人数制限の関係で8月再開としたものもある。

当初は、生徒の顔が見えにくい等の理由で、講師がスクリーンの前に出たがる難点などもあったが、現在では皆がこの環境に慣れ、スムーズな教室運営が出来ている。何時までこの不便が続くか分からぬが、設備の維持管理もしながら、コロナに対し、参加者が安心して参加できる環境を整え、教室の維持・継続に努めていきたい。



女性の会

加古 良子 (会員番号1425)

毎年女性の会では、「芦やん小町」女性の集い、ミニイベント、バザー等を開催しています。けれど、このコロナ禍の中でミニイベント開催をどうするかと検討しました。

感染を防ぐためには中止がベストかも知れませんが、毎日の閉塞感を少しでも和らげられるのではと、いつもの参加型でなく、バイオリンコンサートを選びました。音楽を通して心の潤いや安らぎを届けられたらとの願いでした。

日程を7月から9月に、場所をはつらつ館大会議室から市民センター301・302号室に変更し、



当日は参加者の氏名確認、入場時の体温測定(37度以下である

こと)と記録、アルコール消毒、マスク着用。演奏者と参加者、

参加者同士の密を避けての会場設定、窓の開放で室内換気等、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じた上での開催です。

コロナ禍の状況を考慮した演奏曲、バイオリンの音色に癒された1時間でした。参加者からは「身近に生演奏を聴き、心にしみるコンサートでした」「ぐいぐいと魅了され音の中に引き込まれ、あっという間に楽しい時間が過ぎていきました」などの感想をいただきました。

ウィズコロナ時代に私たち「女性の会」として会員同士の親睦をどういう形で続けるかは課題がありますが、1月30日(土)「芦やん小町 女性の集い」はコロナ対策を講じて開催予定です。重い空気の毎日、我慢の毎日、リフレッシュしましょう!



パソコン研究会

黒住 敬一郎 (会員番号1653)

新型コロナウイルスによってテレワークやWeb会議、オンライン飲み会など新しい様式が定着してきました。

グループで同時にPCやスマホの画面を見ながら言葉を交わすツールとしてLINE、Teams、Hangouts等様々なアプリがあります。

中でもZoom (ズーム) はコロナ禍にあって急速に利用者を増やし代表的なアプリとなりました。はつらつ館会議室使用中止期間中に私達パソコン研究会もオンラインについて勉強し他のアプリも含めて試行錯誤した後、Zoomによる5月例会を

開催することが出来ました。

最初は繋がらなかったり音声が出なかったり顔が映らなかったり??の連続でした。

しかし基本とちょっとしたコツを掴めば決して難しいものではないことが分かったので、他の方たちにも紹介しようということで「Zoomの使い方」を新しい講座として取り入れ7月から開始しました。



着付け班

取材 久我 和子

講師の村上さん、松岡さんに伺いました。

2014年に開講して以来受講者は一日に平均約7名でしたが、現在は4名ほどで午前と午後、各2人ずつに分けて指導をしています。

コロナ禍で気を付けている点は、

- ① 以前は一枚の大きな鏡の前で、生徒が重なり合っただけの指導でしたが、鏡をさらに追加して、部屋を2つに仕切り密にならないように注意する事。
- ② 先生と生徒はマスクを着用し、先生はフェイスシールドも使用。生徒と接近しての指導なので、

飛沫感染に十分注意する。

一対一の丁寧な個人

指導を心掛けて、初級と中級者は各6回ずつ受講ができます。また、七五三などの出張着付けもこれまでどおり始めました。

「寝ている着物を起こしましょう」これが、村上さんのキャッチフレーズです。



小町カフェ

恩田 泰子 (会員番号2289)

コロナ禍で私たちの生活が変わりました。小町カフェも徐々に軌道に乗ってきた矢先の事でした。目に見えないコロナとどう向き合うか、高齢者の私たちには厳しい試練です。

店を暫く休んだ後に始めた事は、マスク着用はもちろんの事ですがソーシャルディスタンスで席を12から7席へと減らし、対面を止めました。入口での消毒、椅子とテーブルの消毒は開店当初からしていたので引き続き徹底しました。一般の飲食店同様、来客数が激減したので、コーヒーのテイクアウトと以前から考えていたジャムの製造・販売に着手、試行錯誤の結果、今ではカフェオリ

ジナルのレシピが出来上がりました。

暑い中、仕入れたトマトを2時

間以上も「おいしくな〜れ」と煮込み、出来上がったときの充実感は何処かに飛んで行ってしまいます。安心して食べて頂けるジャムの売上も上々で、何よりも仲間の連帯感を強いものになりました。そして、今日もスタッフは「いらっしゃいませ」「おいしくな〜れ」と頑張っています。



ワーク・ア・ラ・カルト

木と向き合って

外賀 嘉起 (会員番号2393)
野村 俊一 (会員番号2720)

代表の

外賀さんは仕事歴が7年、副代表の野村さんは5年になり、現在22名(ベテラン5名、中堅5名、6名、初級6名余り)で活動されています。仕事場は、主に一般家庭、公共施設等。新たに芦屋霊園の庭園管理の仕事が始まりました。

初代の森本さんが、剪定班の基礎を、その後、石本先輩が開拓されて、年間約500件以上の仕事を請け負っています。最初は未経験者であっても、先輩から教わってプロ意識が身に着くそうです。

仕事場へは、おにぎりとお水を2リットル。夏は蚊取り線香、冬はカイロを持ち、7時半に現場集合です。最初に注意する事は、刺されると痛いチャドクガ、イ

令和2年8月現在、剪定班は既に予約が12月まで一杯という事でした。打ち合わせ中のリーダーお二人にお話を伺いました。

ラガなどが見つかれば、まず枝を切り落とします。「施主さんが、何を望んでおられるかを知って、希望どおりかそれ以上に出来たら、何より嬉しい」と。

写真家である外賀さんは「剪定と共通点があり、感性が大事」。ある時個人のお庭で、先代からの松の木を切り落とすように頼まれた時には、残しておかないかと話してみても、最後は施主さんのご希望に従いました。

また野村さんはアウトドア派で、「剪定を



木は生きていると思う事がある。なぜなら、想像している様にはならないから」と何時も木と向き合っておられるのでしょうか。最後に伝えたい事は、「入班には面接があり、未経験者であっても、体力と気力がある方なら、どなたでもお待ちしています」という事でした。

取材 久我 和子

私達はいつもおばあちゃん、おじいちゃん家に行くのを楽しみにしています。それは、芦屋の美味しいイタリアン料理店にみんなで行けるからです。おじいちゃんもそのお店が大好きなので、おじいちゃんのお誕生日には、そのお店でお祝いしました。会うと、学校の事や習い事のことなどいろいろ話します。おばあちゃんも、おじいちゃんも、ニコニコしながら話を聞いてくれるので、嬉しいです。おばあちゃんには、新体操やそろばんへよく一緒に行ってもらっていました。たくさん、お迎えしてくれて、ありがとうございます。これからも、元気で私や妹の話をたくさん聞いてね。また一緒に食べに行こうね。

ふみか♡あおい



私のおばあちゃん

林 ふみかさん(小6)
あおいさん(小2)

林 信子さん 孫
(会員番号2444)



似顔絵



吉村 洋文さん



菅 義偉さん



橋田 寿賀子さん

新型コロナウイルス対策で独自基準「大阪モデル」を作り関西をリードする大阪府知事吉村洋文さん、野田内閣」を發足した、第99代首相、菅義偉さん、分たおん「渡り世間は魁ばり」等ホームドラマの脚本を書き続け、文化勲章を受章、橋田寿賀子さん、分た

澤田 邦洋 (会員番号20008)

紀行☆寄稿☆奇行？

人生100年時代

— count downの音を聞きながら —

鳥井 正晴 (会員番号3137)

100歳時代は、人類始めてです。私たちは地図のない旅に出ようとしている。しかし、私達は一度しか生まれません。私達は、若さの何たるかを知らず、老境の何たるかを知らず、老境を過ごす。実はいつも、その時々(ときどき)「初心者」であるのです。走り去る「時間」を止めようとして私が手を挙げたら、間違つては区が止まる。運転手に「行き先はどこですか」と聞かれたら、

「ten years ago」と言ってみてみたい気がする。10年では足りない。thirty years agoの昔日に還ってみたい。「百歳の光陰指(ゆび)一弾(いちだん)」(漱石)です。シニアライフの皆さん！定番のstyleを持ちましょう。styleとは、自身を熟知して自身を精神的に



昭和25年の芦屋海岸

落ち着かせます。常に「心のときめき」を持つていること。気持ちを持ち替える「スイッチ」も持ちましよう。鈍感に生きていく方が、幸せになれる。人生に「必要な」ものだけを残しましょう。「歩き方」は、その人の世界観です。誰からも「嫌われないでいい」人は、一人もいないでしょう。自分の積み重ねて来た「業」の結果が現在。「幸福」と「不幸」は、大体同じ量。毎日「掃除」と「片付け」をしよう。肩書きのない年月にこそ、自分の「本領」を発揮出来ます。いい感じに「体力」が落ちてきた。いい感じに「もの忘れ」がひどくなってきた。いい感じに「貧乏」になってきた。

人は生まれた時は、人間ではない。人は歳とともに、人間になっていくのです。人生の究極の目標は、与えられた「自分の人生」(宿命)を生き抜くこと・生き切ること。コロナ災禍の現在、人類の土台(地球)から激震しています。しかし、「たとえ明日世界が終わるとしても、それでも今日、私はリビングの木を植える」(ルター)。



昭和24年の松浜公園

芦屋の公園が好き

身近に季節を感じる…

『芦屋中央公園』

谷田 和子（会員番号3306）

シーサイドタウンの南、臨港線沿いに緑に包まれた中央公園がある。甲子園グラウンドの約3.5倍という広い敷地にはポプラ、イチヨウ、スギ、メタセコイヤ…さらにヤマモモ、桜、梅

など花や実のなる木も入れて30種を超える樹木が植えられているので、梢を渡る風が心地よい。木立の中の築山や小さな池は、子供たちの格好の遊び場だ。

夜間照明のある野球場や人工芝の運動広場は、ランニング、サッカー、キャッチボールなど、早朝から利用者が絶えない。

公園を一周する遊歩道は全長約850m、ジョギングコースとしても人気がある。西側の遊歩道には、一方にソメイヨシノ、



もう片方が八重桜の並木があり、ソメイヨシノの花吹雪が終わる頃、八重桜がふんわりとまるい花を枝いっぱいにつけて風に揺らぐ。

スポーツやジョギングを楽しむ若者や築山で遊んだ子供たちは、いつかこの公園を卒業して新しい生活に移ってゆくだろう。そしてまた次の世代が公園にくる。時を経て木は逞しく大きくなり、遊歩道の影も深くなった。

中央公園にながれる時間に、芦屋で暮らした年月を重ねながら公園を歩いている。

芦屋市 花と緑のコンクール

サントリーフラワーズ賞 受賞

春の芦屋市花と緑のコンクール（オープンガーデン）でセンターが管理する「モンテペロバラ園」がコミュニティ（グループ）部門においてサントリーフラワーズ賞を受賞しました。管理を担当されている五嶋 政敏会員にお話しをお伺いしました。

このバラ園はモンテペロ市との姉妹都市提携を記念して昭和48年10月に岩ヶ平公園内に開園しました。園内に木立性（一般的なバラ）バラが約260本、つるバラ9本が植わっているそうです。

五嶋さんは平成21年から担当し、変わられた時期もありますが、栽培の知識と技術、経験を見込まれ令和元年秋からまた管理されています。

一年間の管理計画を立て、元肥・追肥、害虫の防除・駆除・薬剤散布、灌水、苗の植付け、剪定・除草等作業は多くあり、適した時期にする必要性を教えていただきました。

最初は花が咲けばよいという思いが次第に大輪や中輪を咲かせるためにと他園を見学、勉強され、さらに綺麗に密集して見えるよう



にとバラの種類を混ぜ乱雑に植える、咲く時期に目の高さになるように剪定する、そして秋にも花が楽しめるように等の工夫もされています。

バラ園には近隣の幼稚園・保育所の先生と園児、高齢者…、西宮や神戸からも観賞に来られ、いつも見に来てくれる姉妹からバラ園のおじちゃんにとお手紙をもらった事もあり、「ごころうさま」「ありがとう」の言葉が何よりも嬉しいと言われていました。

オープンガーデンに参加して3年、受賞したことは市とシルバークの方々のお蔭ですと喜んでおられました。これからも美しいバラで皆さんを楽しませ、和ませて欲しいと思います。

取材 加古 良子

市民センター「キッチンカフェなりひら」をみんなで育てましょう!!

芦屋市民センター内の「 Grill業平」の運営業者が令和2年春に撤退したことから、芦屋市シルバー人材センターが運営に参画できる可能性があるのか打診したところ、芦屋市から「シルバー人材センターに運営を任せよう」との回答を受けました。そこで当センターでは、市の意向や将来を見つめて新事業として実施するかどうか検討を重ね、理事会の承認のもとプロジェクトチームを立ち上げ、11/6開店することが出来ました。その経緯と要点をお知らせします。

1. 当センターが運営することの意義・メリット

- ① 高齢者の就業機会拡大という芦屋市の施策に対応でき、市との信頼関係が強くなる。
- ② 市民に広く知ってもらい拠点になり得る。
- ③ 当センターならではの市民目線とキャリアで、利益第一だけではなく市民が親しみやすい憩いの場に変革出来る可能性が高い。

2. 当センター運営の問題点と解決策

- ① 採算性：コロナの影響で市民センターやルナホールの利用者が少なく多くの利用者が見込めない現状で、1年目は赤字となる予想であるが将来を見つめて採算改善に取り組む。
- ② メニュー：利用者に満足頂ける味と品数、価格の設定に努力して改善を重ねていく。
- ③ サービス：接遇講習会等の実施などでスタッフの技量を高め心地よい空間作りに努力する。
- ④ スタッフ：「事業は人なり」と言われるように、スタッフのひとりひとりの動きとワンチームとしての働き、いわゆるチームワークがこのプロジェクト成功の鍵を握っている。より多くの会員の積極的な参加と協力が不可欠である。
- ⑤ 衛生面：コロナ対策を始め衛生面は最重要項目として、対策を講じていく。

これらの問題を認識し、芦屋市との折衝、コスト試算と収益改善策、メニューの設定と試作、設備の準備、接客対応の研修会、安全衛生への対応など、やるべき事を列挙した詳細工程表に基づきこの事業立ち上げに関わった会員の熱い熱意とチャレンジ精神で課題を一つ一つ潰していきました。店舗の名前は由緒ある「業平」の名前は残し、大切な人のために料理を提供するキッチンでありたいとの思いから「キッチンカフェなりひら」に決定しました。

全会員で育てましょう

この事業に取り組むことを決定した以上、市民の期待に沿い、当センターの将来にプラスになり、会員が誇りに思える新店舗に育てたいものです。

これからの課題は前述2項の問題点の対策と、多くの市民に利用して戴けるように広報していくことです。当センターは宮塚町で喫茶店「小町カフェ」を営業していますが、この経験も土台として「キッチンカフェなりひら」を広く市民の皆様にご利用頂けるようにスタッフのみならず全会員が、利用者拡大などに協力して頂ければと思っています。みんなで「キッチンカフェなりひら」を育てていきましょう。

森 信行(会員番号2241)



編集後記

昨年からコロナ禍により地球規模で大変な状況になっています。以前読んだコラムに、「新型コロナウィルスは「パンドラの箱から出てきた厄災の極み」と書いていました。

新型コロナウィルスは人の尊い命を奪い自由な行動も制限し、それにより経済を委縮させ、人間の一番醜いところ、すなわち差別、中傷等々をあぶり出してきました。

感染拡大の初期は「アフターコロナ」とか言って早期の終息を期待していましたが、今は「ウィズコロナ」すなわち、新型コロナウィルスと共生する新生活様式になりました。

当センターも講座等の各活動では十分な注意と工夫をしながら感染対策を講じて運営されています。

でも、やはり以前の生活に戻りたい。

ただただ、一日でも早い終息を心より願うばかりです。

尾地 照男

はつらつギャラリー

版画による年賀状作り



主版（原画）



途中行程



完成 2012年の作品



1973年の作品
(旧タイプの一押し)



2019年の作品



2016年の作品



2020年の作品

私の「年賀状」は中学2年生のお正月から始まりました。以来毎年、休むことなく多色刷りの年賀状を続けています。

版画は年に1度、年賀状のためだけに手がけます。テーマは“子どもの遊び”。「主版」と呼ばれる原画をベースに色分けをする版木を何枚も用意するのですが、そのテクニックを使い始めたのは2012年の年賀状からです。



いつまで続けられるか分かりませんが、体力・視力・手先の器用さが維持できる限りがんばるつもりです。

吉崎 正俊（会員番号1777）